



3年生 野鳥観察 耳を澄まして 目を凝らして

2021.1.26(火)



発行所
常磐南小学校
電話 46-2005
FAX 46-2048
— 第10号 —
2021.2.26



岡崎野鳥の会
会長、立石さん
を講師に迎えて



田園地域に住む私に、春の訪れを知らせる野鳥がいる。

「チュルリ、ピチュルリ、チュルリ……」表現が難しい高鳴きと呼ばれるその音色に心が和らぐ。今年も1月下旬、その姿を現した。ヒバリだ。

そして、川面に目を移すと、コバルトブルーの美しい鳥が一直線に飛んでいく。カワセミだ。

40歳で犬を飼い始め、以来、毎日散歩に出るたび、たくさんの野鳥が目に留まるようになった。四季折々、

オオルリ

2021.2.26



全長17cm、スズメより少し大きい

校長 都筑 祐一

その姿と鳴き声に癒されている。

去る1月26日。岡崎野鳥の会会長、立石次朗さんを招き、3年生が野鳥観察を行った。本校の伝統的な行事の1つだ。

教室に向かう前、校長室で名刺交換をした後、しばし立石さんと野鳥の話で盛り上がった。

『庭先に現れるジョウビタキは渡り鳥で、その場所が気に入れば、3年くらいは毎年やりますよ』

『虫を主食とするシジュウカラ1匹が食べる虫

の数は、10万匹を超えるんです。もし、この鳥がいなかったら、私たちの町は……』

教室に行つてからも立石さんの話は面白い。子どもたちの質問も絶えることがない。実際の野鳥観察では、十分な出会いはなかったが、ある子どもはこんな感想をもった。

『立石さんの双眼鏡で鳥を見たら、模様がとてきれいで、びびくりした』(OHさん)

私は、立石さんの話に刺激を受け、岡崎野鳥の会のホームページをあげた。詳細な野鳥の観察記録とともに、私をうならせたのは、会の目的の1つ。こう記されていた。

『月刊機関紙「ハクセキレイ」に探鳥会の記録を残し、自然・環境の変化の資料とする』

丁寧な観察記録は、野鳥を通して、環境の変化をつかむというビッグプロジェクトでもあるのだ。

2年続けて我が家を訪れたジョウビタキ。春を知らせてくれるヒバリ。いつまでもその姿と音色を届け続けてほしいと思う。

「オオルリってこの辺にいるの?」

「いるよ。オオルリは渡り鳥で夏になるとよく見るよ。オスは青色で、とてもきれいだよ。」

平成元年の学校記録に残る子どもたちの会話だ。

果たしてオオルリは、今もいるのか、いないのか。常南学区は野鳥の宝庫。子どもたちの力で、学区の宝、野鳥の学びを広げていきたいと思う。

*R3 野鳥委員会を立ち上げます

